

第3回 伊東市津波対策八幡野地区協議会議事録

場 所：八幡野コミュニティセンター

日 時：平成 28 年 6 月 29 日（水）19:00～

出席者：地元役員・関係団体 14 名、県関係者 11 名、市関係者 4 名

1. 挨拶

挨拶



2. 熱海土木事務所から説明

- ・今まで地区協議会の振り返り
- ・配付資料についての説明



3. 伊東市から説明

- ・災害に対する取り組みの説明
- ・避難計画の策定についての説明



4. 話し合い（ワークショップ）

- ・資料 1 により、第 2 回地区協議会において出された、地震・津波発生時に想定される課題と対応策を確認します。その際、ハード対策の方針（護岸整備はしない）も確認します。
- ・資料 1 を見ながら、地元としての意見をまとめていくため、資料 2 を使い、数グループに分かれて意見を出し合ってください。
- ・グループワークの内容は、
 - ① 対応策の抽出（新規アイデアも）
 - ② 対応策の具体化（具体的な避難ルートの特典など）
 - ③ 優先順位（短期的対策（2～3 年）、中期的対策（10 年以内）、長期的対策）つけです。



5. 意見発表

1 グループ

レベル1に対する、この防潮堤の整備の件だが、レベル1の被害想定を見るとここに、防潮堤を造っても意味がないので造らなくていいという結論に達した。

次にこの切れてる部分については、台風の時の波の高さを考えると、ここは整備した方がいいだろうという話になった。

そして、次にレベル2の時の避難路の整備について討論したが、ここにテンノウサンの坂があるが、避難路としてはテンノウサンの坂は使えないというような話が出た。それは、ここにいさお丸があり、地元の人知っているが、この下が空積みで何も積んでないような状態の崖になっている。地震でここが崩れる恐れがあって、この避難路自体が使えなくなるだろうという予想をしている。ここにハイキングコースがあるが、この小さな道を整備した方がいいだろうという結論に達した。で、ここがダートの状態なので、舗装をして防犯灯みたいなものを付けてもらえると避難路として使えるだろうと、そういう話になった。

それから、次に検討した避難路だが、この辺の方達は、1番いい選択としてはこの太い道を通してマンションの下の方まで逃げるのが適切と思う。ただ、緊急性がなくて、逃げる選択肢としてですね、この3つの経路を作って——用意しておこうという、そういうことになる。この1番下の通路が何も整備しなくても使える状態になっているので、そのままいいだろうと。1番上の部分もたぶん平気だということだが、この真ん中の所がですね、かなり急で実際に使えるかどうか分からないというような話も出たが、緊急の避難路としてなら想定しておいてもいいだろうという結論に達した。

ここにはについては、この辺まで平坦なので、津波が凄い勢いで来た時にはですね、ここまでは凄いスピードで津波が押し寄せてくると考えられるので、この辺にいて緊急に逃げる必要が来た時にはですね、これが役に立つと、そういう結論に達した。

そして、もう1つ検討してもらったのは、ここに中の島があるがここを避難タワーとして活用できないかという話が出た。これは、逃げる場所としてはそんなに必要性は感じられないかもしれないが、階段を付けて、上に何人か身を寄せる場所さえ造れば避難タワーとして使えるので、ここに階段を付けて、そういう形にしておくと、役に立つだろうといった結論に達した。



2 グループ

2 班は防潮堤の設置と避難経路について話し合いをした。

みなさんと一緒に、防潮堤に関しては必要ないという結論になった。

避難路に関しては、想定を花火大会とか、祭りとか地元以外の観光客の方が多い時に限って考えてみた所、まず、1 番人数として多く逃げるのがこの下町を通ってる道になります。その次に多くなるだろうと予想されるのが、駅から来た観光客とか、小学校に車を駐めた観光客がこの東町の坂を歩いて来るので、避難路の説明をしてもたぶん来た道を帰るだろうということで、この道が 2 番目に人の通りが多くなると思うので、崩落の危険があるこの道の整備—崩落防止の整備が必要だと思う。それから、下町の方ですね、地元の人を使う道としてこの大重丸を上げる坂とか、あとはげたやの所なんかにもあるがその辺も階段などが老朽化しているので、整備が必要ではないかという意見が出た。



3 グループ

3 班は特にハード面的な部分としては、ここの部分にレベル 1 の防潮堤を付けてもあまり効果がないという意見と、ここが船揚場になっていて、ここに、例えば防潮堤を造っても使い勝手が非常に悪く、狭い川とか何かの場合は引き戸式の、津波が来た場合に閉められるような水門があるが、台風の時も船揚場として利用しているので、防潮堤についてはこの部分には必要ないという結論に達した。

それから、ソフト面的に避難経路としましては、私達ここの町内だが、ここに太い道路が 1 本あり、避難経路としては 1 番いいが、大きい地震が来ると、川が下にあるので、コンクリートで蓋をされていて普段は車が通れるが、例えばレベル 2 の大きい地震が来た場合、この川幅が 5、6m 位あって、高さも 4、5m 位あると思われるが、このコンクリートが落ちた場合、ここを避難路として使えなくなるので、先程も色々話が出ているが、お寺に上る道路、これは今使える。それから、川を挟んでこちら側にもう 1 本、お稲荷さんがあって、このお稲荷さんをお宮の方へ移設した。途中まで階段が付いているが、お稲荷さんのあった所にもう少し階段を付けば、この道を避難路として、利用できるのではないかという意見が出た。

こちらの方については、漁協の駐車場の入口付近で、大体 13m 高さがあります。海抜 13m あるので、このままお寺の前を通過して、ここのマンションの入口、ここが大体、海抜 19m あるのでこちらへ避難する経路が考えられる。

問題はここの人が、最初に利用できる避難路が使えない場合、どういう方法がいいかということで考えて、ここは急傾斜地の崩落の工事で打ち合わせ等、やっているが、ここに高さが 12、13m 位のちょっとした平場があるがもしこういう工事を利用して避難タワーを造れたらいいと思う。特にソフト面で、この避難路の経路を考えるのが 1 番じゃないかという意見に達した。

ここに、こっちの人が行くことはあまり無いので、避難訓練を行ってもこういう流れで避難している。それで、ここの町内についてはここが第 1 避難場所で、両側から集まってきた人が小学校なり、そういう所に、避難してくという話を町内でしている。

それで、どの班でも出たが、ここの防潮堤については使い勝手が悪いが、ここの所が切れている。台風が来ると波が被ったりする危険があるので、高潮対策としての、防潮堤は必要ではないかという話になった。

